

ラグビーと京都 ワールドカップとその後

◆日本で開催のラグビーワールドカップ2019が、日本代表の活躍で盛り上がる中、佳境を迎えています、ラグビーは、この京都とも縁が深いスポーツです。

◆遡ること一世紀以上前の明治43年(1910年)京都市左京区下鴨神社境内の糺の森で、慶応義塾(現在の慶応義塾大学)と旧制第三高等学校(現在の京都大学)で、関西で初めてのラグビーの練習が行われ、昭和44年(1969年)に、「第一蹴の地」として記念碑が建立されました。

◆こうした歴史をもつ京都府は、中高生のラグビー部員比率が、図1のとおり、中学では全国で最も高く、高校も全国8位となっています。このような裾野の広がり、高校・大学の多くの強豪校や、ミスター・ラグビーといわれた人をはじめ多くの偉大なラグーマンを生んだといえるのかもしれませんが。

図1 平成30年度 中高生千人当たりラグビー部員数

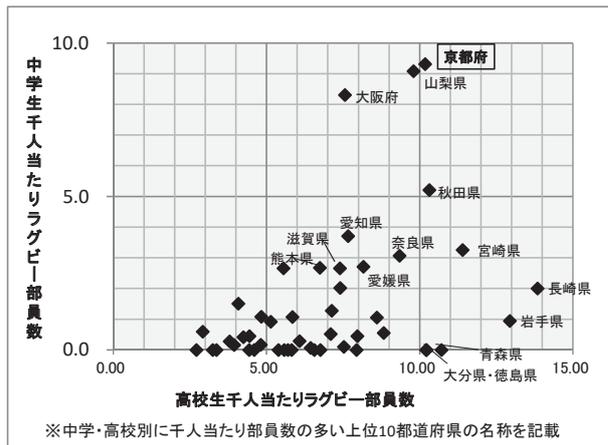
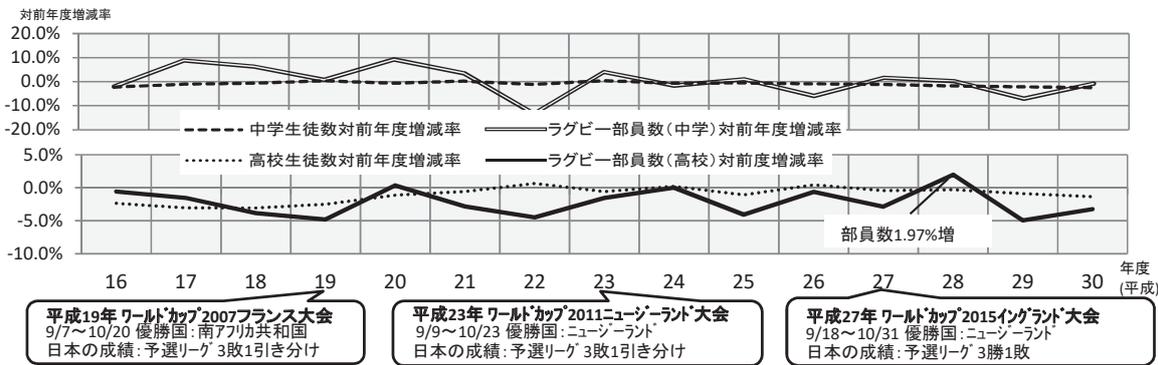


図2 中学・高校 生徒数及びラグビー部員数(対前年度増減率)の推移(全国)



◆平成27年(2015年)の前のラグビーワールドカップイングランド大会で、日本が、優勝候補の南アフリカ共和国に、終了間際の劇的な逆転トライで勝利し、世紀の番狂わせと称されました。

◆最近15年間の全国の中高生徒数とラグビー部員数の対前年度増減率の推移は図2のとおりです。中高共、平成19年と平成27年のラグビーワールドカップの翌年には、前年度と比べ生徒数減少の中、部員数が増加しており、特に前回平成27年のイングランド大会翌年には高校生の対前年度増減率が1.97%と他の年度に比べて高い比率となっていますが、今回のワールドカップの後はどうでしょうか？

◆いずれにせよ、今回のワールドカップの興奮と感動が未来へつながら、いつの日か日本代表が、優勝を争う世界の強豪を破るのが番狂わせでなくなる日が来るのを期待し、残り少ないワールドカップの試合やその後のラグビーを見ていきましょう。

図1及び図2の資料:
 生徒数 文部科学省「学校基本調査」高校生生徒数は全日制と定時制の男女計 中学生生徒数は男女計
 ラグビー部員数 中学:公益財団法人日本中学校体育連盟「加盟校調査」(調査基準日:平成20年度以降は6/1 平成15~19年度は9/2~10/1までの間で年度毎に異なる)の男女部員数計
 高校:公益財団法人全国高等学校体育連盟「加盟登録状況」(各年度8月現在)の男子部員数